

と畜検査で発見される病気

牛編 No3 疣贅性心内膜炎(イボ)

☆ どんな病気なの？

心臓には血液の逆流を防ぐ為の弁膜がありますが、ここに細菌(まれに真菌(カビ))が増殖し疣贅(ゆうぜい)と呼ばれるかきつらつ状のイボを形成します。疣贅性心内膜炎とは、このイボが感染巣になり菌血症(菌が血液中に侵入した状態)や敗血症(血液中の菌が増殖し、全身症状を引き起こした状態)を起こす病気です。牛がこの病気にかかると発熱や食欲不振を生じ削瘦してくるため、病畜として搬入された牛に発見される事がよくあります。イボの大きさは小豆大から拳大に達するものまであり、検査で心臓を切開した時に巨大なイボを発見すると、百戦錬磨の検査員もあまりの大きさにびっくりしてしまいます。

☆ どのようにして病気はおこるのだろう？

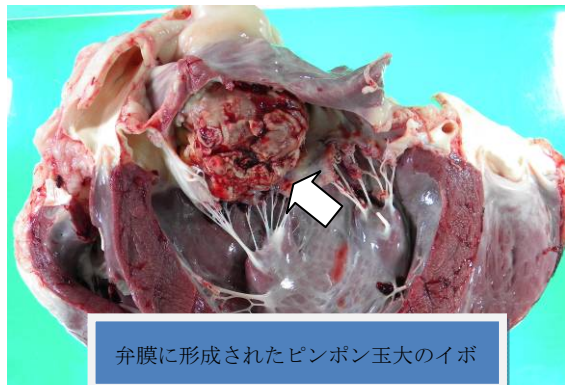
関節炎や子宮炎、乳房炎等の病巣から連鎖球菌(*Streptococcus bovis*)やArcanobacterium pyogenes等の菌が侵入し、心臓の弁に定着して増殖することが原因です。菌は血流によって肺や肝臓に微小膿瘍を形成することもあります。

☆ いろいろな動物のイボ

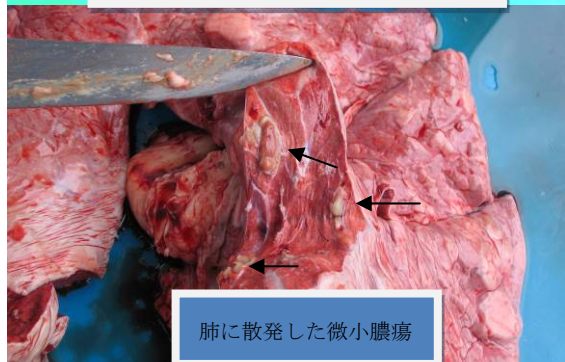
この病気は牛だけではなく様々な動物に認められます。イボ自体かなり発生率の低い病気ですが、豚では豚丹毒菌により特定農家で高率に発生することがあります。当検査所でも検査で連続してイボを発見したなんて事例もありました。人ではこの病気にかかると敗血症によって重篤な症状を示す事があります。特に人工弁を付けた人、先天性の心疾患を患っている人等、心臓に何らかの疾患を持っている人は罹患するリスクが高いようです。

☆ イボの病理組織所見

イボでは結合組織の増殖が顕著で、そのほか好中球の浸潤や菌塊が認められ、しばしば膿瘍を形成しています。



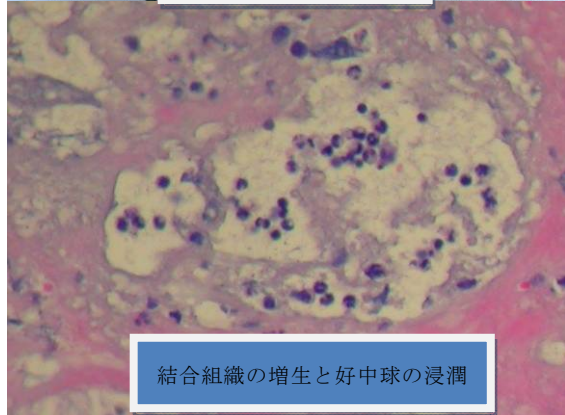
弁膜に形成されたピンポン玉大のイボ



肺に散発した微小膿瘍



豚心臓の親指大のイボ



結合組織の増生と好中球の浸潤



イボは弾力があって、あたかもゴムまりのようダニャ。